

技術士包装物流会関西支部 福喜多俊夫

<中国 EV 情報 74>では 2016 年 11 月に入手した中国政府諸部門やマスコミからの新エネルギー車、EV 情報を記載します。

1. 中国、EV 充電インフラ整備を推進 2020 年をメドに 500 万台の需要に対応へ

中国国家発展改革委員会（発改委）と国家能源局は 7 日、「電力発展の 第 13 次 5 カ年計画（十三五、2016-2020 年）」を発表した。電気自動車（EV）の発展と充電設備の整備を加速し、2020 年をメドに全国で 500 万台超の電気自動車（EV）の充電需要に対応する方針だ。「十三五」計画期間中に、中国は利用者の居住地や職場の駐車場、公共交通やタクシーの停留所などに付設する専用充電設備を中心に、EV 充電インフラの整備を加速する。このほか、公共施設の駐車場、臨時駐車場などに付設する公共充電施設、独立した都市急速充電ステーション、バッテリー交換施設、高速道路のサービスエリアに付設する都市間急速充電ステーションなどを補助的な充電設備として整備する。2020 年をメドに、新規の集中型 EV 充電・バッテリー交換ステーション 12000 カ所、分散型充電ポール 480 万カ所を建設する計画だ。将来を見据えたスマートで高効率な充電インフラを整備し、全国で 500 万台超の EV の充電需要に対応する。（中国網 11 月 8 日）

2. トヨタが EV 量産化へ 2020 年メド 環境規制に対応

トヨタ自動車が、2020 年をめどに電気自動車（EV）の量産体制を整える方向で検討に入ったことが 7 日、分かった。時事通信が報じた。世界各国で強化される環境規制に対応するため、年明けにも社内組織を立ち上げて開発を加速する。これまでトヨタはハイブリッド車（HV）や燃料電池車（FCV）を中心にエコカー開発を進めてきたが、今後は EV も含め品ぞろえを拡充する。（中国網 11 月 9 日）

3. 中国製 EV バス、COP22 でサービスを提供

中国製の環境にやさしい EV バス（電気バス）十数台がモロッコのマラケシュで、第 22 回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP22）に出席する代表者に乗車サービスを提供した。新華社が伝えた。

マラケシュ副市長は記者に対して、「これらの EV バスは会期中、会場と各ホテル間を行き来し、出席者の移動を確保する。運行する EV バスは 35 台に達する見通し。これはマラケシュが中国から購入した、第 1 陣の EV バスだ」と話した。（人民網 11 月 10 日）

4. 北京汽車集団、右ハンドル対応の EV

北京汽車集団はマレーシアで開催中の自動車展示会で、世界に先駆けて右ハンドル対

応電気自動車（EV）を発表した。現地の組み立て体制を整え、2017年4～6月中の販売を目指す。（日経11月12日）

5. 珠海格力電器、EVメーカー買収断念

中国エアコン最大手の珠海格力電器は17日、電気自動車（EV）事業への新規参入を中止すると発表した。約2千億円でEVの中堅メーカー「珠海銀隆新能源」を買収して参入を狙ったが、既存株主の同意が得られなかった。（日経11月18日）

6. 世界初の新エネ懸垂式モノレール試験線運行開始

世界初の新エネ懸垂式モノレール試験線が21日午後、四川省成都市で正式に運行を開始した。新エネ懸垂式モノレールとは、リチウム電池パワーパックをけん引動力とする懸垂式モノレールを指す。世界初の新エネ懸垂式モノレールは、西南交通大学けん引動力国家重点実験室が中心となり、中国中車、中国中鉄、攀枝花鋼鐵公司など大型国有企业7社が共同開発した、中国が完全に独自の知的財産権を持つ新型現代交通システムだ。

（人民網11月23日）

7. 新エネ、新技術搭載車種、広州モーターショウに勢ぞろい

グリーンで環境にやさしい新エネ車は近年、モーターショーの主な見どころとなっている。第14回広州モーターショーでは、計146台の新エネ車が勢揃いしており、その内訳は中国メーカーが49台、海外メーカーが97台で、ほぼすべてのメーカーが新エネ車を展示了。新華網が伝えた。

従来の電気自動車の他に、メーカー各社は太陽エネルギー、水素エネルギー、ハイブリッド・エアなど、さらなる新エネ動力の模索を開始している。漢能控股集団の「Solar R」は、太陽エネルギーを動力とする新エネスポーツカーだ。開発者が記者会見で発表した情報によると、この車は一定の日照条件下で、太陽エネルギーを自動車のメイン動力源とすることができます。車載ソーラーパネル発電を自動車全体のバッテリー電力と結びつけることで、航続距離が400キロに達するという。（人民網11月24日）

8. 独メディア、中国のミステリアスな電気自動車がイギリスで発表されたと伝えた

「南ドイツ新聞」は22日、中国の「NEXTEV」が作った新型電気自動車について、「おそらく世界最高速の電気自動車だ。最高時速は313キロに達する。イギリスでわずか6台が極秘に生産された」と報道した。ドイツのテレビ局「ディチエ・ヴェレ」ウェブサイトが11月22日に報じた。

NEXTEVは21日、ロンドンでこのミステリアスな量産電動スポーツカー「EP9」を発表した。この車を知る人はこれまで少なかった。発表会では販売価格は明かされなかった。同紙は「これは奇妙なことではない。なぜならこの電気自動車メーカーは、これまでミステリアスだったからだ。NEXTEVは2年前に上海で創業された自動車メーカー

一だ。同社はテンセントや京東 (JD.COM)、小米など大手 IT 企業の支援を受けている。彼らは電気自動車が中国で成功してほしいと願っている。中国政府も同じ期待をしている」と記している。(中国網 11月 28 日)

9. アジア最大の充電スタンドが稼働開始

3ヶ月の建設期間を経て、北京薈聚センター地下駐車場充電スタンドの第 1 陣となる 55 基の充電ポールが、このほど正式に稼働開始した。これには 17 基分のクイック充電ポールと、38 基分の普通充電ポールが含まれる。このスーパー充電スタンドは総計 158 基の充電ポールを設け、クイック・普通充電の比率は 1 : 1 となる。竣工後はアジア最大の電気自動車公共充電スタンドとなり、電気自動車の充電問題を解消する見通しだ。科技日報が伝えた。(人民網 11月 28 日)

以上